

大明シネマ特別企画「幻灯上映会」8月7日（日） 午後3時～

みらい館大明



幻灯：1960年代以降は「スライド」とも。絵画や写真などの静止画像をスクリーンに大きく映し出し、ナレーションやせりふをその場で読み上げて上映するメディア。今回は昭和20-30年代に作られた貴重なフィルム式幻灯を、当時の幻灯機を使ってライブで上映します

子どもから大人まで楽しめる！

『東京を明るく 清く美しく』 『にこよん』 『わっしょい わっしょい ぶんぶんぶん』

幻灯 上映 会

平成28年 **8**月**7**日（日）午後3時～4時15分

会場 みらい館大明（豊島区池袋3-30-8）大明スタジオ
主催 NPO法人いけぶくろ大明（みらい館大明）
後援 豊島区（予定）
協力 早稲田大学演劇博物館
フィルム提供：神戸映画資料館
定員 40名（事前申込・先着順）
料金 無料
申込 みらい館大明まで

TEL：03-3986-7186

E-mail：miraikan_taimei@yahoo.co.jp



※みらい館大明は、地域の有志で構成されたNPO法人いけぶくろ大明が管理・運営する閉校施設です。

みらい館大明 幻灯上映会

“幻灯”は光源とレンズを使って、透明なスライドやフィルムなどにするされた絵画や写真などのイメージをスクリーンに大きく映し出すメディアです。17世紀に欧米で発明され、江戸時代の日本にも伝わっていましたが、明治期に英語の magic lantern の訳語である「幻灯」の名称が定着し、新時代の映像メディアとして一世を風靡しました。

映画の普及後は勢いの衰えた幻灯ですが、戦時中に復活し、昭和20-30年代には第二の全盛期を迎えます。昭和戦後の幻灯は、子どもや主婦、貧しい労働者であっても、誰にでも手作りして、人を集めて上映できる草の根の映像メディアとしても盛んに活用され、写真やマンガ、人形劇、影絵などを使った数々のユニークな作品が作られています。上映前に幻灯が市民生活に果たした役割及び上映方法等をお話しいたします。

講師：鷺谷 花さん（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）

『東京を明るく清く美しく』（1960年）

製作：東京都新生活運動協議会
神戸映画資料館所蔵

新生活運動は敗戦後の国民生活の再建、さらには民主化・近代化を進めるために1955年（昭和30年）に始動した。東京都新生活運動協議会は1957年（昭和32年）に結成され、このスライドを製作したのは、一場面に写っている映画ポスターの公開年から、おそらく1960年（昭和35年）ごろと考えられる。4年後の東京オリンピックを前に大きく変わりつつある東京の都市環境や生活の細部が映像として記録されている。



『にこよん』（1955年）

製作：全日自労・飯田橋自由労働組合
脚本、演出、撮影：榎谷新太郎
配給：日本幻灯文化社
神戸映画資料館所蔵

戦後の東京の復興・都市開発事業は、「にこよん」と呼ばれた失業対策事業で働く日雇労働者たちの肉体労働によって支えられていた。当時、失業対策事業で働いていた当事者の労働者たちが、自分たちの企画・製作・出演により、自分たちの生活と労働を幻灯化したセミドキュメンタリー作品。



『わっしょい わっしょい ぶんぶんぶん』（1954年）

製作：東大セツルメント川崎こども会
作：加古里子
配給：日本幻灯文化社

日本を代表する絵本作家として現在も活躍を続ける加古里子（かこさとし）が、川崎でのセツルメントこども会活動の一環として創作した幻灯。音楽が好きな国の住民たちが、意地悪な悪魔に邪魔されながらも、さまざまな工夫で音楽を奏でつづける楽しい作品。紙芝居版（童心社）、絵本版（偕成社）と、画面構成の異なる複数のバリエーションが作られている。



(C) かこさとし 1954

ナレーション・読み手

「東京を明るく清く美しく」

「にこよん」

…鷺谷 花さん

「わっしょい わっしょい ぶんぶんぶん」

…（未定）